2023年10月1日発行
（毎月1回1日発行）（78巻10号）
ISSN 0035-7774

Digest of Science of Labour

労働の科学

2023 October 10
Vol.78, No.10

無責任な泉,1984／菅沼 緑

特集

「働き方の未来を50人が読む」第3回調査報告

プロジェクトチーム／濱野 潤（代表）, 石井賢治, 北島洋樹, 酒井一博,
坂本恒夫, 福島 章, 松田文子, 湯淺晶子, 余村朋樹

1. 調査概要
2. パート1：トピックス調査
3. パート2：定点観測調査

巻頭言

「漂流者たち―クミジョの肖像」の連載を終えて
本田一成

追悼

輝峻衆三氏を偲んで
斉藤 進

連載

労研アーカイブを読む ⑨⑪
岸田孝弥

軽労働化で農業の再生②
宇土 博

ILOインド南アジア産業安全保健通信⑩
川上 剛

大原記念労働科学研究所

Digest of Science of Labour

労働の科学

2023 October 10
Vol.78, No.10

巻頭言　俯瞰（ふかん）
「漂流者たち・クミジョの肖像」の連載を終えて 1
本田 一成［武庫川女子大学 教授］

表紙作品：菅沼 緑「無責任な泉,1984」
材料：木材
会場：インディペンデントギャラリー（東京・銀座）
年度：1984年
撮影：大倉康範

特集　「働き方の未来を50人が読む」第3回調査報告

「働き方の未来を50人が読む」プロジェクトチーム
..... 公益財団法人大原記念労働科学研究所
濱野 潤（代表），石井賢治，北島洋樹，酒井一博，坂本恒夫，
福島 章，松田文子，湯淺晶子，余村朋樹 4

追 悼
暉峻衆三氏を偲んで
..... ［公益財団法人大原記念労働科学研究所］斉藤 進 29

Series

ILOインド南アジア産業安全保健通信（10）
アーメダバードの下水道清掃安全衛生トレーナー養成 ..... 川上 剛 36

漂流者たち クミジョの肖像（31）
連載のおわりに ..... 本田 一成 39

Series

軽労働化で農業の再生 (2)
農業における手指の負担軽減対策—Dr. Cut 負担を軽減した採果鋏
各論第1回 ..... 宇土 博 42

労研アーカイブを読む (91)
エネルギー代謝率の基本となる概念についての検討の試み ..... 岸田 孝弥 48

Column

有隣会の活動の一環として
大原ネットワーク「大原總一郎日記研究会」 ..... 福島 章 34

自由と想像 (10)
彫刻に向かって ..... 菅沼 緑 55

つれづれなるままに
国際女性デーと国際男性デー ..... 千葉 百子 56

BOOKS
『産業医・産業保健の発展のために 基本概念の考究と自己の信念の樹立を通じて』
これからの産業保健関係者に必要な能力を解説 ..... 伊東 明雅 60

『よみがえる天才7 北里柴三郎』
予防医学による社会貢献 ..... 椎名 和仁 61

労働科學のページ 62

次号予定・編集雑記 64

「漂流者たち・クミジョの肖像」の連載を終えて

本田 一成

ほんだ かずなり
武庫川女子大学 教授

今月号で終了するクミジョ（労働界でがんばっている女性の愛称）の連載を始めたのは本誌2021年3月号だから、2年9ヵ月にわたり、毎月の執筆を続けたことになる。すっ飛ばさずに読んでいただいた方々に感謝する。

連載開始当初は、クミジョの研究に着手して日が浅く、その実体を少しつかみかけていた。手探りで足踏み状態なのに見切り発車したのは、連載を持てば否応なしにクミジョに集中することを迫られるからである。見たことも聞いたこともないはずのクミジョ論考に、どんな反応が起きるのか試してみたかったこともある。

印象深いのは、「ああいう話は好きじゃない」（いい身分だなあ）、「クミジョが増えても別にオレは特に気にしない」（そういう話なのか）、などのクミダンの言葉である。「まさにおっしゃる通りだが悔しい」（悔しいだけ？）というクミダンもいた。良いクミダン、マシなクミダンにも会えた（でも余計なことを言わないだけのクミダンがマシなクミダンとされるのがイタい）。

クミジョという言葉を使うことを関係者から批判されたことはほとんどない。女性をカテゴライズしてしまう危険性は理解していたが、あえて困りごとだらけで苦境にあるクミジョの「見えぬ化」を防ぐのを優先した。けしからん、という一部の批判者は、大センセイか、訳知り顔のクミダンか、クミダンに同化することで自衛しているクミジョであった。

クミジョを直視してきて連載を終えるいまも、私の頭は、「クミジョ・クミダン問題」を巡って躍動的である。例えば、クミジョの苦難や漂流の原因の多くはクミダンにあるのは間違いない。それなら、クミジョの壁や崖を問題にするのではなく、クミダンが乗り越えるべき壁の方を明らかにしなければならない（回り道であっても、出会った全国のクミジョたちが伝えてくれたリアリティは何事にも代えがたいが）。

クミダンの調査にも着手して、昭和時代のOBN（オールドボーイズ・ネットワーク）が強固な労働界に嫌気をさし、離脱しようという心性や行動が見られることもわかった。そうだとすれば、あれほどクミジョがマイノリティだと主張してきたのに、あろうことか、本当はクミダンの方がマイノリティなのではないか。

今日もまたクミダンとスレ違いまくりのクミジョの嘆きが聞こえてくる。企業のようには倒産しない、役員に任期がある、みんなのためとか一枚岩であることが要求される、隅から隅まで男性型、人材停滞もあるなどの特殊な組織特性が多く、変革を起こしにくいのが労組である。だが、今後の炎上リスクも考えず、いったいいつまでクミジョを漂流させているのであろうか。

男性がマジョリティの体裁を保っているのは、ジェンダーギャップ指数最劣悪国よろしく、労働界だけでなく政界、法曹界、マスコミ業界など、どこも同じようだ。こんな日本で、もう男女の区別を口にするのはやめよう、といった実態をともなわない言い訳や、あるいは、男女のことも覚束ないのにもっと難易度の高い多様性へ着手する目くらましに付き合わされる。そういう話は私の方が、好きになれない。

クミジョとクミダンは、マジョリティなのかマイノリティなのか、真偽を問う分析が必要であろう。「クミジョ・クミダン問題」を科学する研究者が出てくることに期待したい（仲間が欲しい）。